

2.2.3 健康に関する状況

(1) 健康について(アンケート結果)

① 健康への関心

健康への関心は「大いにある」・「少しある」と回答した市民は約9割、学生は約8割とどちらも多い結果となっています。

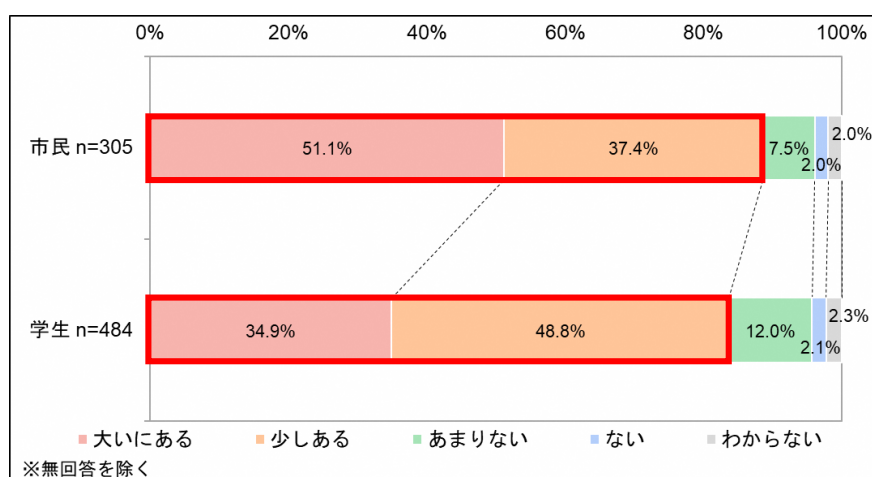


図 健康への関心

出典：R6出雲市における自転車利用環境に関する市民・学生アンケート

② 生活習慣の改善意思

健康への関心が高かったため、改善意思も「大いにある」・「少しある」と回答した市民は約8割、学生は約7割となっています。

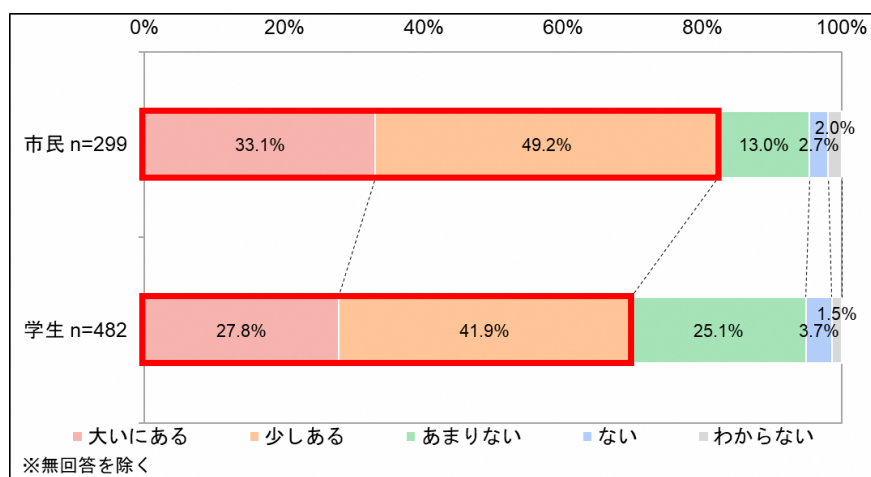


図 生活習慣の改善意思

出典：R6出雲市における自転車利用環境に関する市民・学生アンケート



③ 日常的な運動をしているか

健康への関心は高かったものの、市民の回答を見ると「日常的に運動をしていない」が4割強、「日常的に運動している」が5割程度に留まっており、運動による健康づくりに結びついていないことがわかります。

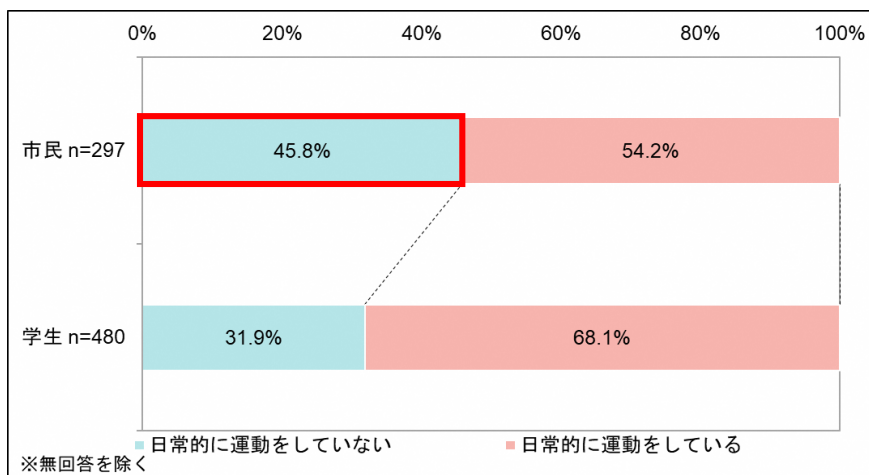


図 運動習慣の有無

出典：R6出雲市における自転車利用環境に関する市民・学生アンケート

④ 自転車を活用した健康づくりへの興味・関心

市民・学生ともに自転車を活用した健康づくりへの興味・関心が「大いにある」・「少しある」と約4割が回答しています。

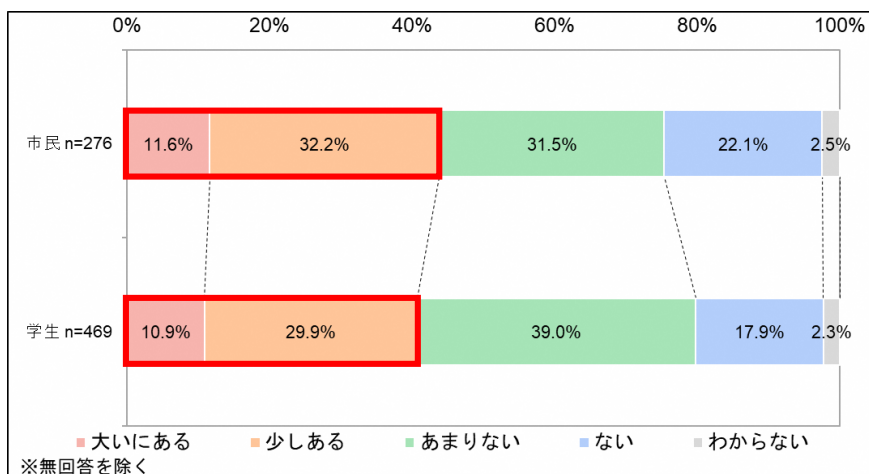


図 健康づくりへの興味・関心

出典：R6出雲市における自転車利用環境に関する市民・学生アンケート



2.2.4 観光に関する状況

(1) 出雲市の施設別観光客数

本市は、年間約700万人が訪れる出雲大社を始め、日本遺産になっている日御碕や稲佐の浜などの著名な観光地を有しています。また、R5島根県観光動態調査アンケート結果から周遊動向を分析した結果では、出雲大社に次いで、道の駅キララ多伎が多くなっています。

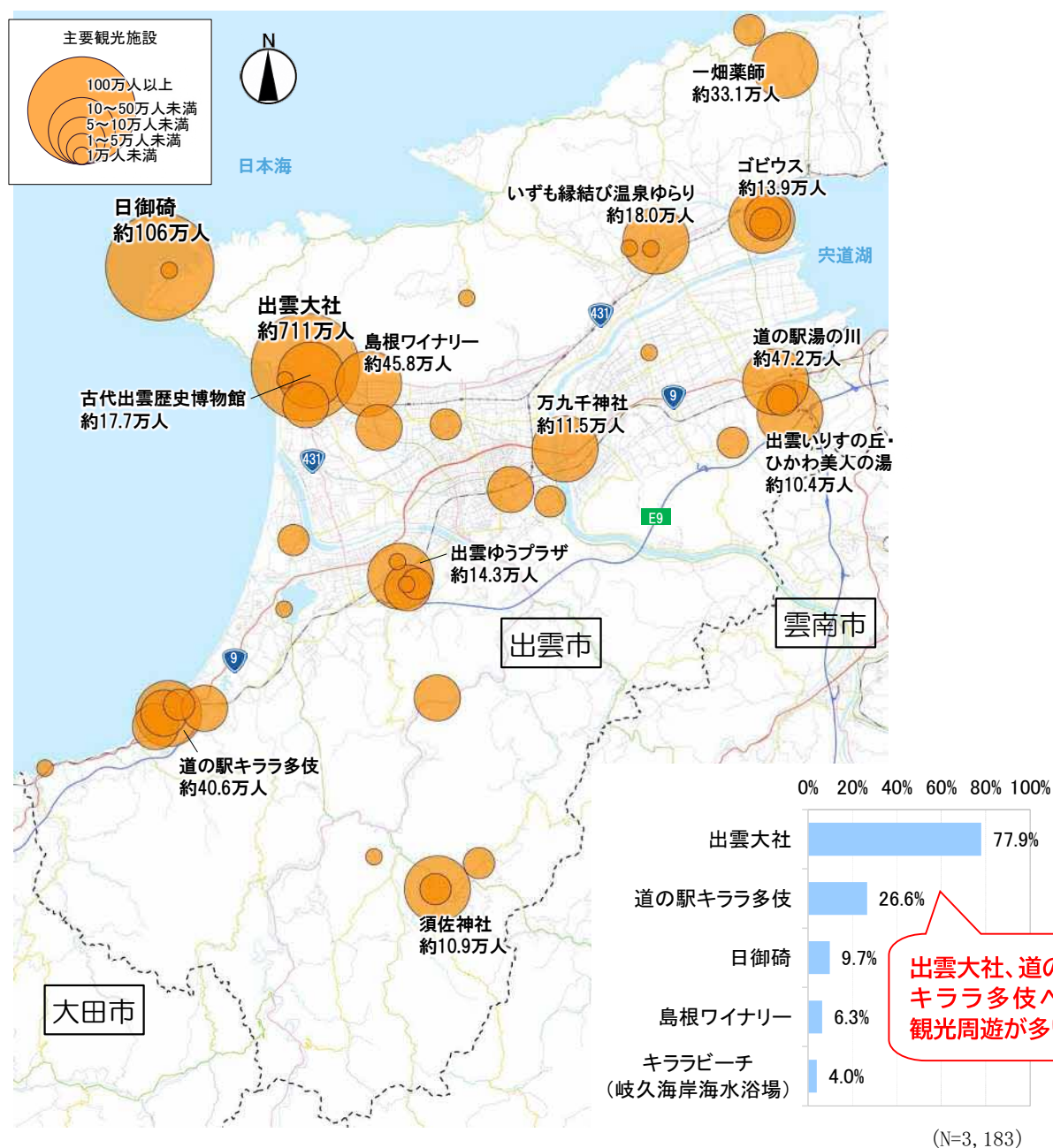


図 出雲市の主要観光地

図 出雲市内観光地の観光周遊割合

出典：R5出雲市観光動態調査業務

(2) 日本遺産「日が沈む聖地出雲」

島根半島西端の海岸線は、出雲神話の舞台となった「稲佐の浜」「日御碕」の名で親しまれ、そこからみる夕日は絶景です。古来の出雲も日が沈む聖地として知られており、出雲の人々は夕日を神聖視して畏敬の念を抱いていました。この祈りの歴史のストーリーが「日本遺産」として認定されています。

【日本遺産とは】

地域の歴史的魅力や特色を通じて文化・伝統を語るストーリーであり、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な**文化財群**を**総合的に活用**する取組



文化財群の
総合的な活用
が必要



<稲佐の浜>



<日御碕>

(3) 県外観光客の利用交通手段

県外からの観光客の約4割は、自家用車以外の交通手段で来訪しており、二次交通の確保が必要です。

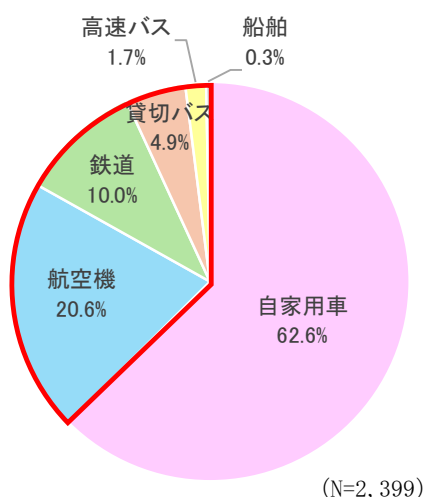
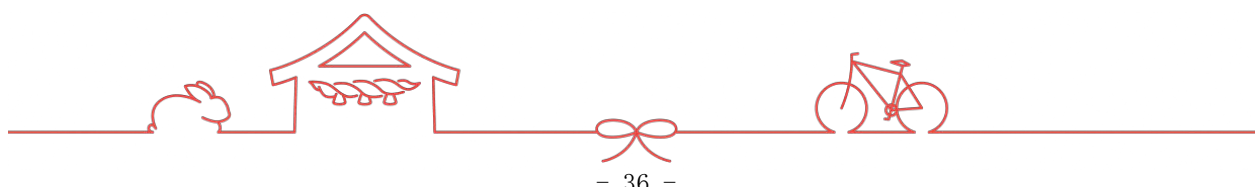


図 利用交通手段の内訳

出典：R5出雲市観光動態調査業務



(4) サイクリングイベント実施状況

本市の道路を使用したサイクリングイベントも年間2～3回程度実施され、県外からも多くの方が参加されています。

表 出雲市がコースに入っているサイクリングイベント(R1～R5)

年度	サイクリングイベント	募集定員
R1	やまなみ街道クライムライド2019	400人
	出雲路センチュリーライド2019	800人(参加:407人)
	フジドリームエアラインズで行く、島根サイクリングキャンペーン	—
R2	出雲路センチュリーライド2020	700人
R3	出雲路センチュリーライド2021	700人(参加:379人)
R4	やまなみ街道クライムライド2022	400人
	出雲路センチュリーライド2022	700人
R5	やまなみ街道クライムライド2023	400人
	出雲路センチュリーライド2023	600人
	やまなみ街道サイクル「道の駅」でん2024	350人
R6	やまなみ街道クライムライド2024	400人
	出雲路センチュリーライド2024	500人

出典：しまねサイクリングNavi、サイクリストビュー、SPORTS ENTRY

※出雲路センチュリーライド2024において、サイクリストアンケートを実施しました。



(5) サイクリストアンケート

出雲路センチュリーライド2024（出走者213名）において、サイクリストアンケートを実施し、旅行先でのサイクリングやロードバイクを使ったサイクリングについてご意見を伺いました。

<アンケート回答者の居住地>

アンケート回答者の約8割が、県外居住者でした。

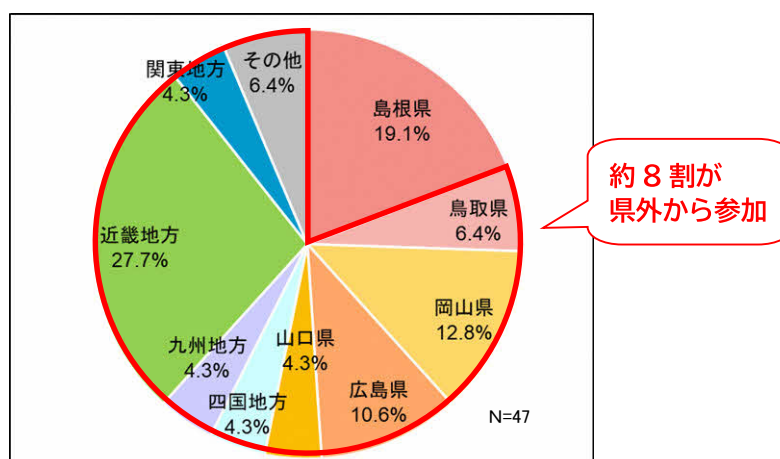


図 回答者の居住地の内訳

出典：R6サイクリストアンケート（9/15出雲市センチュリーライド）

① 旅行先でのサイクリングに関して

<旅行先でのレンタサイクル利用経験>

アンケート回答者の約3割が、旅行先でのレンタサイクルを利用したことがあると回答しています。

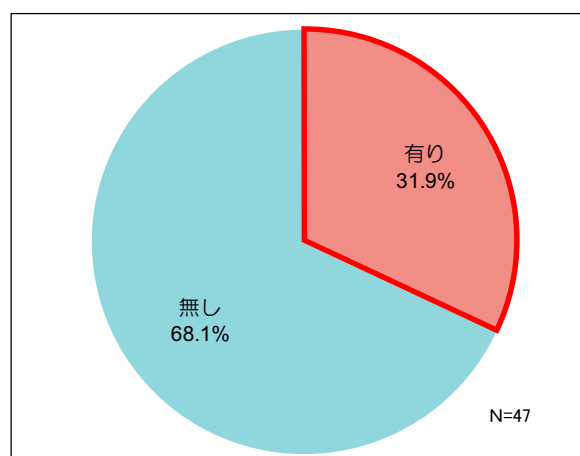


図 レンタサイクル利用経験の有無

出典：R6サイクリストアンケート（9/15出雲市センチュリーライド）



＜旅行先でのレンタサイクル利用時間＞

レンタサイクルを利用する場合、「2～3時間程度」の回答が最も多く、約4割となっています。

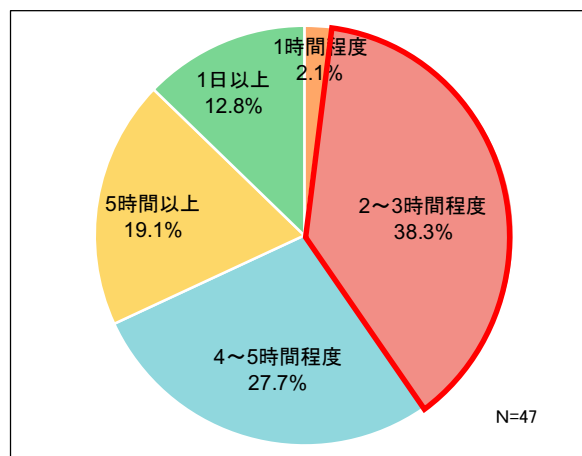


図 レンタサイクルの利用時間

出典：R6サイクリストアンケート（9/15出雲市センチュリーライド）

＜旅行先でレンタサイクル利用する場合の自転車の種類＞

レンタサイクルを利用するなら、約半数が「ロードバイク」を選ぶと回答しています。

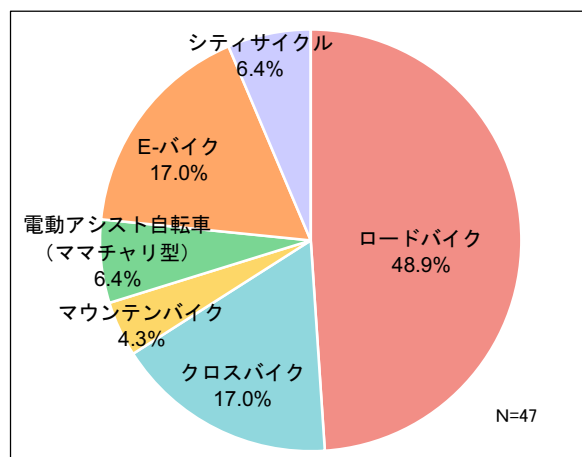


図 レンタサイクル利用時の自転車の種類

※レンタサイクル利用経験がない回答者の回答（仮定）も含む

出典：R6サイクリストアンケート（9/15出雲市センチュリーライド）



<どのような魅力があれば、旅行先でレンタサイクルを利用するか>

旅行先でレンタサイクルを利用するなら2～3時間程度の回答が多かったように、「適度な距離・時間で観光地を周遊することができる」と利用すると考えている回答者が多いことがわかります。

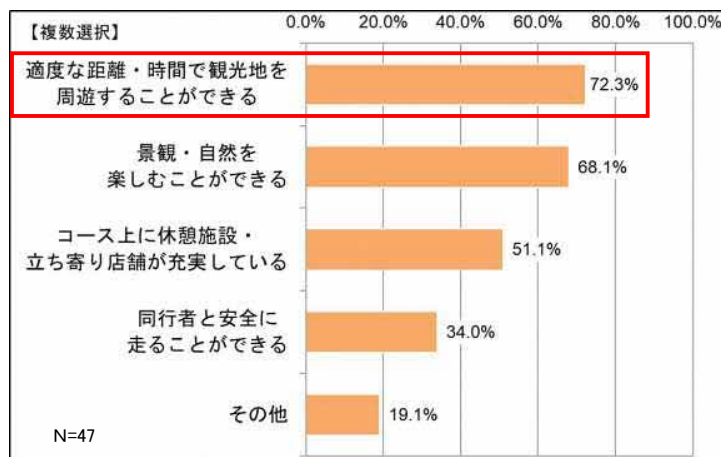


図 旅行先でレンタサイクルを利用するための魅力

出典：R6サイクリストアンケート（9/15出雲市センチュリーライド）

<一般の観光客に向けたサイクリング情報の有効な発信手段>

情報発信について、「SNS」の回答が最も多く、次いで「観光情報サイト」、「youtube」となっており、デジタルコンテンツが有効となっています。

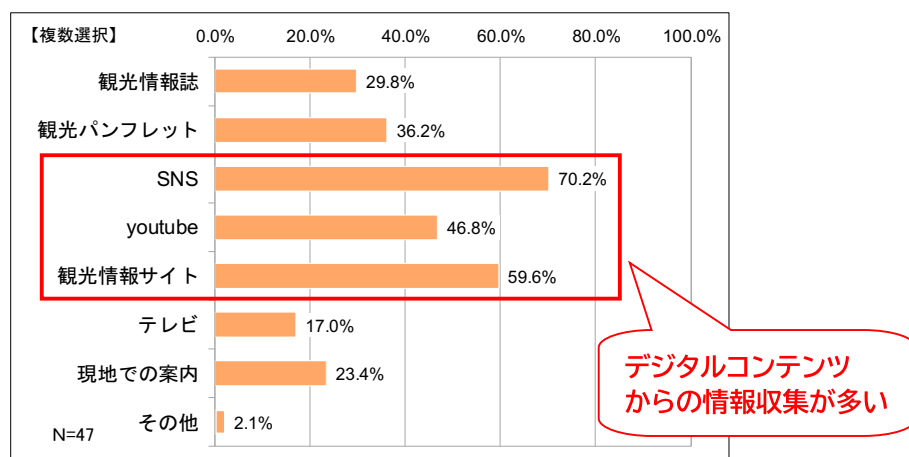


図 有効な情報発信手段

出典：R6サイクリストアンケート（9/15出雲市センチュリーライド）



② ロードバイク等を利用したサイクリングに関して

<地元以外でサイクリングを行う頻度>

自家用車等でロードバイクを運ぶなど地元以外で行うサイクリングの頻度は、「年に3～4回」が約3割で最も多く、月に1回以上の高い頻度でサイクリングを行う回答も約4割となっています。

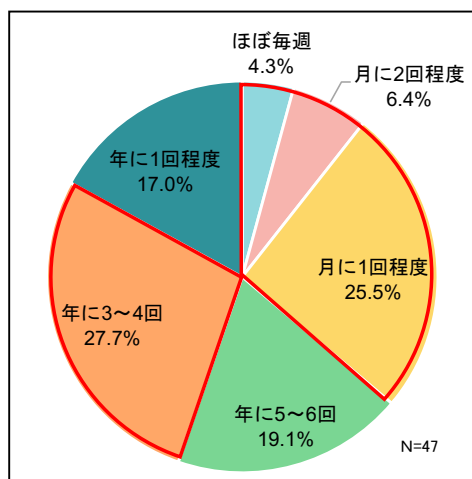


図 地元以外でサイクリングを行う頻度

出典：R6サイクリストアンケート（9/15出雲市センチュリーライド）

<サイクリングの行先を検討する際に重要視すること>

サイクリングの行先で重要視することは「自動車交通量が少なく走りやすいコース」、「景色を楽しむことができるコース」の回答が多い結果となっています。

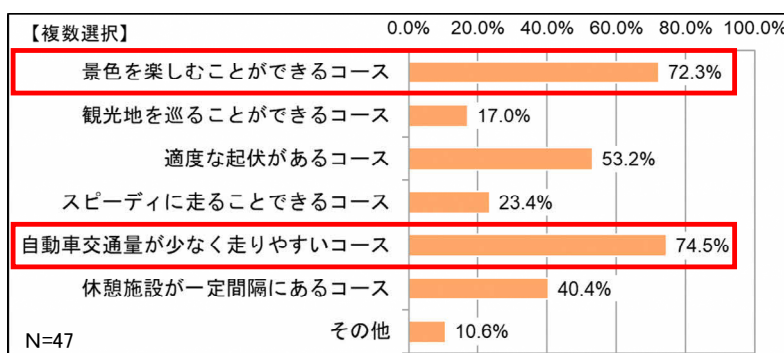


図 サイクリングの行先で重要視すること

出典：R6サイクリストアンケート（9/15出雲市センチュリーライド）



＜サイクリングの行先を検討する際の情報源＞

サイクリストの情報源は「インターネット検索」が最も多く、次いで「SNS」となっています。

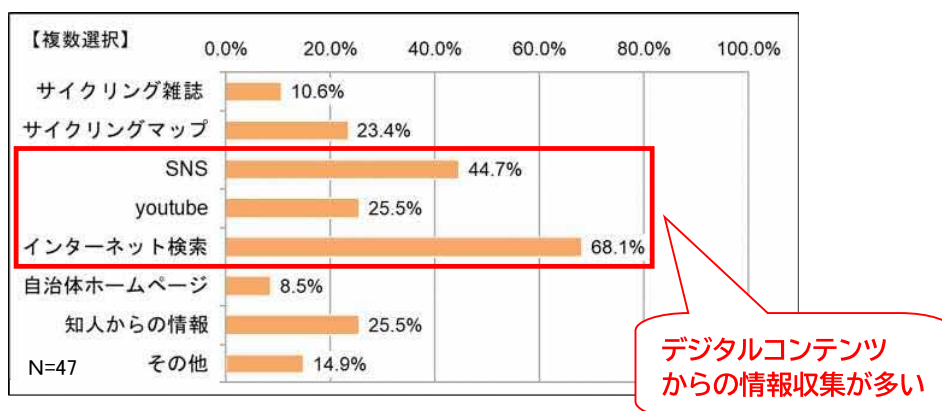


図 情報源

出典：R6サイクリストアンケート（9/15出雲市センチュリーライド）

＜地元以外のサイクリングに向かう際の主な交通手段＞

主な交通手段は、「自家用車」が最も多い結果となっています。

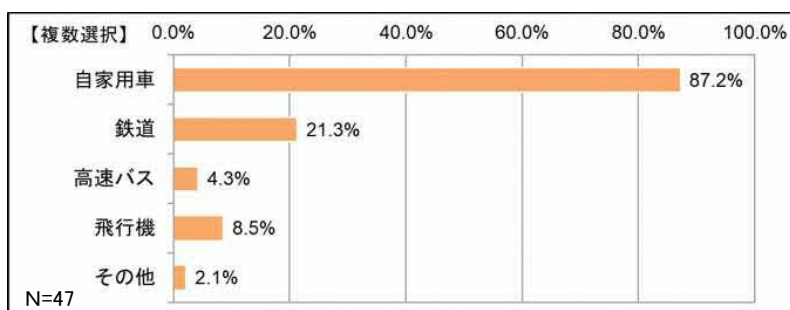


図 主な交通手段

出典：R6サイクリストアンケート（9/15出雲市センチュリーライド）



<出雲市のサイクリング環境の問題点>

出雲市のサイクリング環境で「駐輪施設やサイクルポートが十分でない」ことが最も問題視されており、「サイクリングコースの案内がない、または分かりにくい」、「自転車で安全に走行できる対策が行われていない」など、コースや安全面にも問題点があるという回答結果となっています。

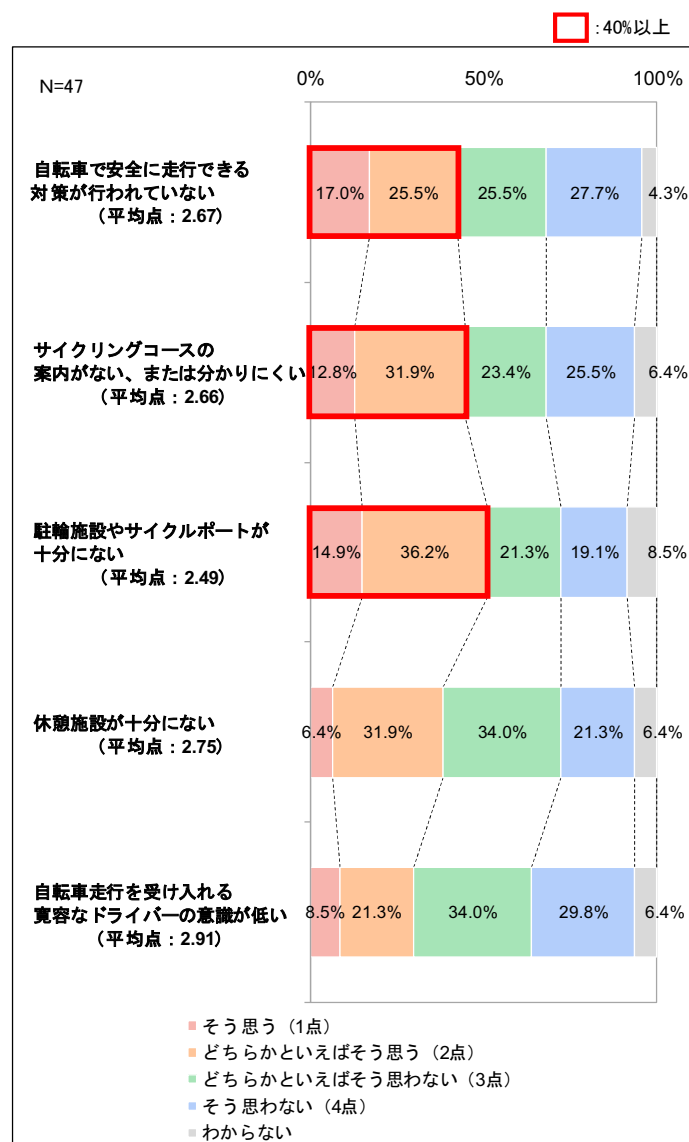


図 出雲市のサイクリング環境の問題点

出典：R6サイクリストアンケート（9/15出雲市センチュリーライド）



＜サイクリストに出雲市を訪れてもらうために必要な対策＞

出雲市を訪れてもらうためには、「サイクリングイベントの開催」が重要と考える回答が最も多く、サイクリング環境にも繋がる「ラインやピクトグラムの設置」、「サイクルスタンドの設置」、そして周知も重要という回答結果となっています。

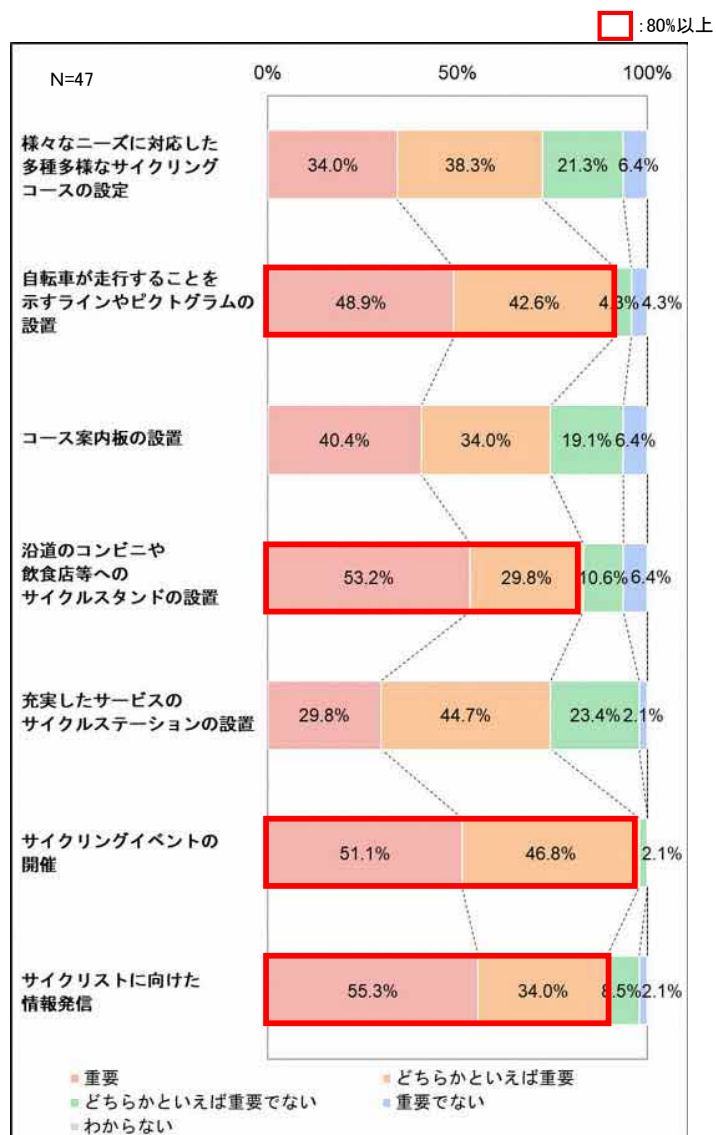


図 出雲市を訪れてもらうための対策

出典：R6サイクリストアンケート（9/15出雲市センチュリーライド）



2.2.5 安全・安心に関する状況

(1) 自転車関連事故・ヒヤリハット

本市の自転車に関する交通事故は、年間約30件程度発生しており、その多くは中心部で発生しています。事故の危険性を感じたヒヤリハットも同様の傾向にあります。

表 自転車関連事故件数・割合

	総事故件数	自転車に関係する事故	総事故件数に対する自転車関連事故の割合
R1	274件	35件	13%
R2	198件	31件	16%
R3	184件	26件	14%
R4	230件	29件	13%
R5	199件	32件	16%
合計	1085件	153件	14%

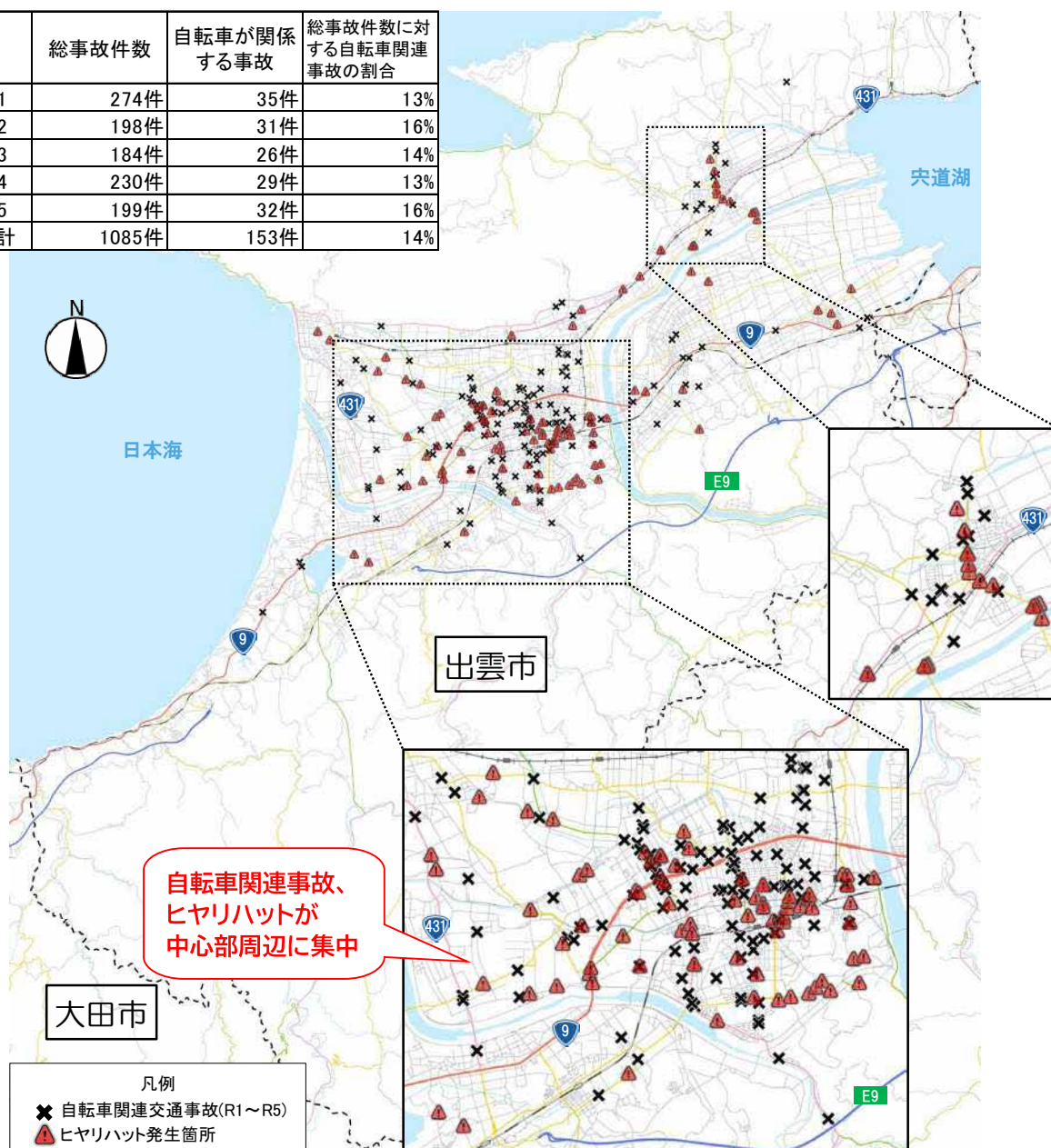


図 自転車関連事故発生箇所・ヒヤリハット箇所

出典：出雲警察署、R6出雲市における自転車利用環境に関する市民・学生アンケート

(2) 自転車関連事故の特徴

本市の自転車関連事故の約4割が、20歳未満の自転車利用者です。自転車側の事故要因は、車や歩行者・他の自転車の動きに気づいていながら注視を怠る「動静不注視」が約3割で最も多くなっています。また、自転車利用者の事故の際の負傷状況をみると、約3割が重傷・死亡事故となっています。

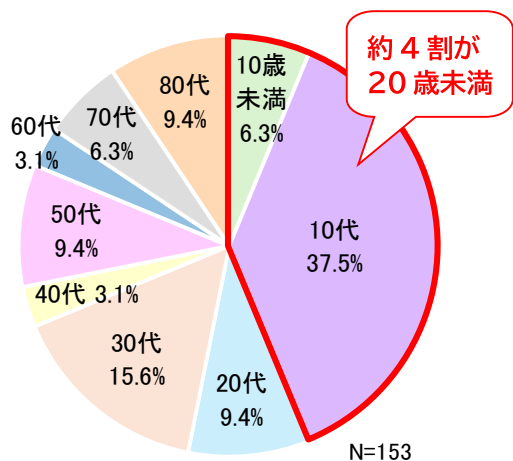


図 年代別割合(R1～R5)

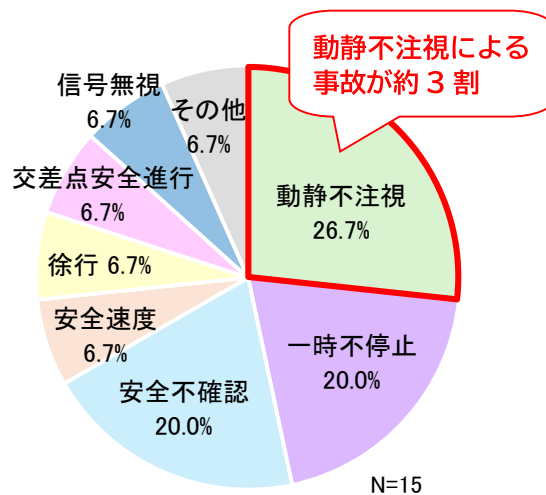


図 自転車側の事故要因

出典：出雲警察署

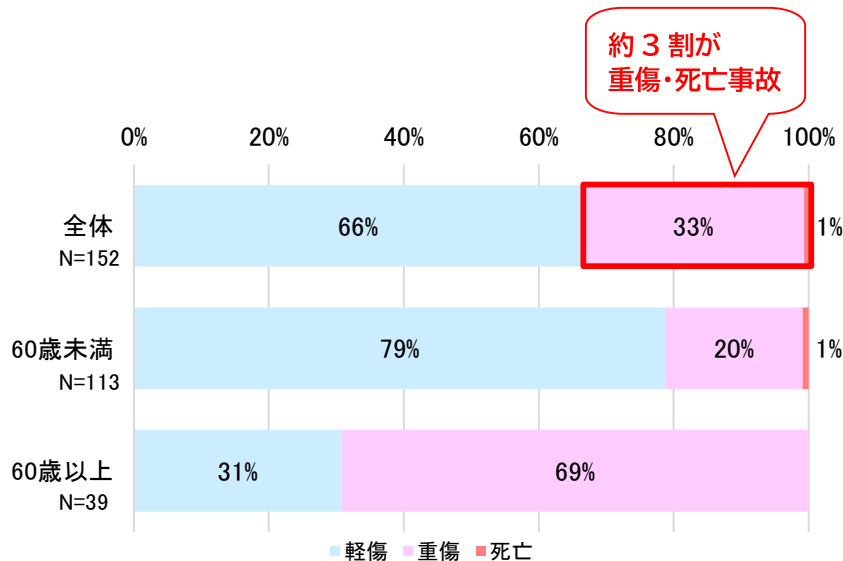


図 自転車側の負傷状況(R1～R5)

出典：出雲警察署



(3) 自転車利用者の意識・理解(アンケート結果)

① 交通ルール理解・順守状況

市民・学生ともに、交通ルールに関してどの項目も理解度は高く、約9割を超えています。しかし、その中でもヘルメットの着用については、「理解し、守っている」市民は10%をきっており、他の項目では約7～8割の順守率があった学生もヘルメットの着用率は低い結果となっています。

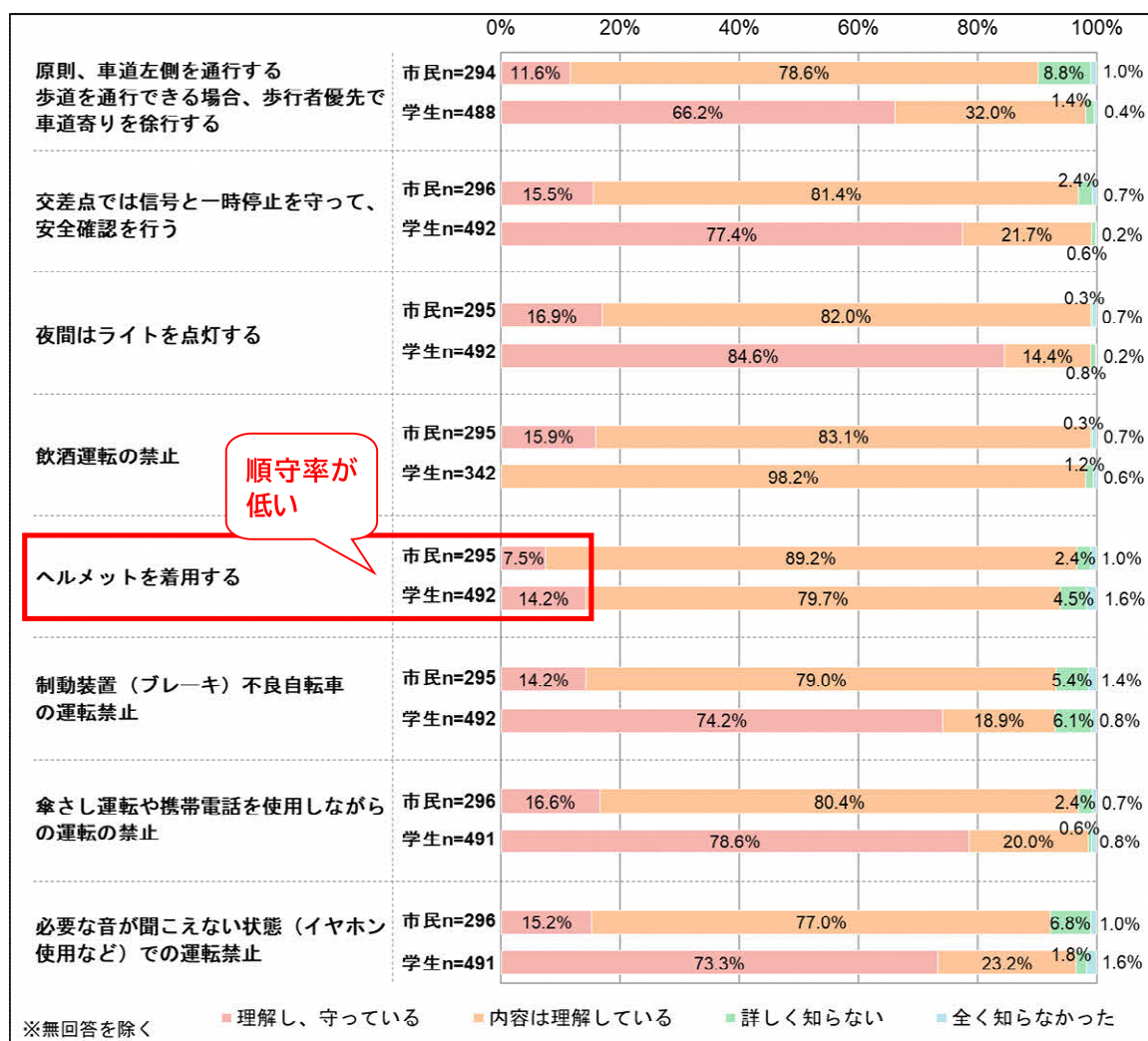


図 交通ルール理解度

出典：R6出雲市における自転車利用環境に関する市民・学生アンケート



② 自転車保険の加入状況

自転車保険への加入は、市民・学生ともに約5割に留まっています。また、学生の約5割は加入状況を知らない状況です。

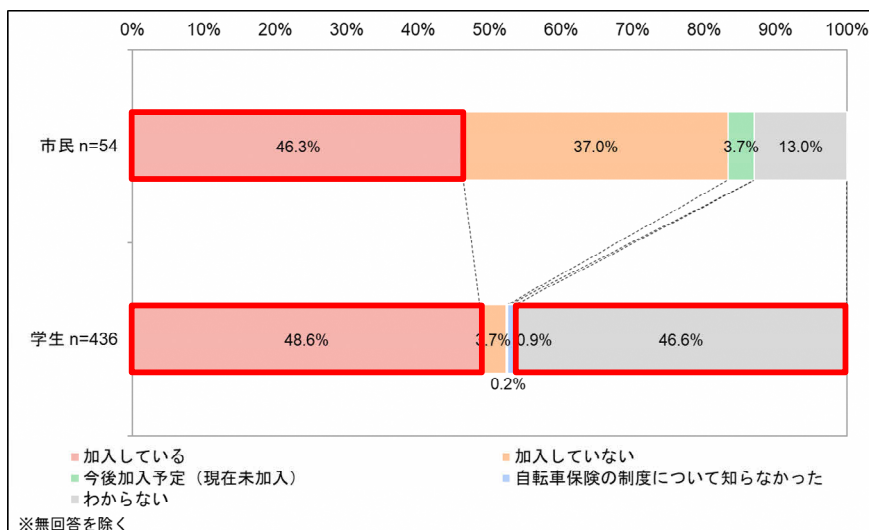


図 自転車保険の加入状況

出典：R6出雲市における自転車利用環境に関する市民・学生アンケート

③ 自転車の点検整備実施状況

自転車の点検整備を学生の約5割は半年に1回以上行っているのに対し、市民は約2割に留まっています。

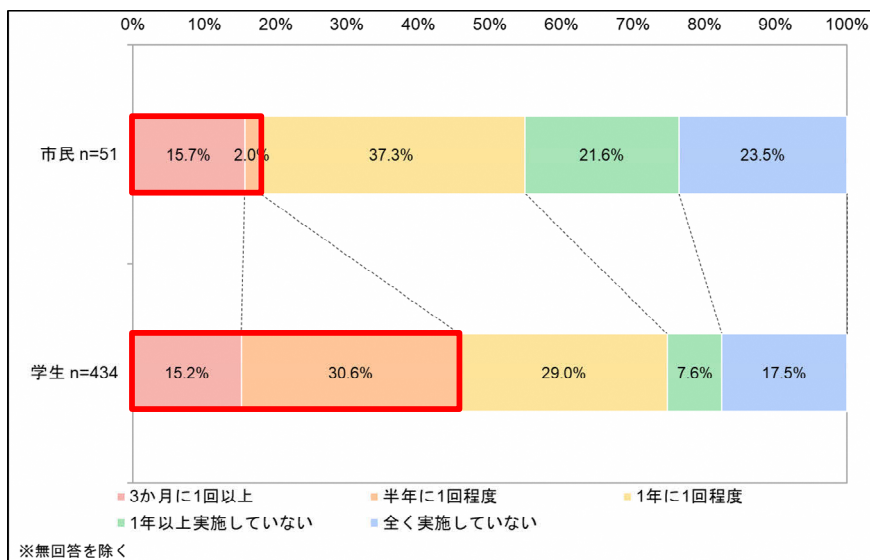


図 自転車の点検整備頻度

出典：R6出雲市における自転車利用環境に関する市民・学生アンケート



2.3 自転車活用にあたっての問題点・課題

自転車に関する全国的な動向及び出雲市における現状より、自転車活用にあたっての問題点・課題を以下のとおり整理します。

都市環境	・本市は、平坦な出雲平野が広がり気象条件も良く自転車利用には適しているが、自転車利用割合が低い。 ・市民の移動手段は自家用車に依存するとともに、公共交通の利用は減少しており、ピーク時に渋滞が発生するなど環境負荷が高い。 ・市内3箇所で開催しているレンタサイクルの利用者は時期によって少ない。 ・自転車を利用しない市民の約1割は、対策可能な理由により自転車利用しておらず、さらにその6割は対策により自転車利用が期待される。 ・市民や学生からは自転車走行空間の整備や駐輪場の整備のニーズが高い。
健康	・本市の死因は、生活習慣を一因とする「がん」や「心疾患」が上位に並んでおり、発症リスクを低下させることが必要である。 ・日常的に健康を意識する市民・学生は7～8割程度と多いものの、日常的に運動を実施している市民・学生は半数以下に留まっている。 ・自転車を活用した健康づくりに対して興味がある市民・学生は約4割であるため、自転車に乗る機会作りが必要。
観光	・年間約700万人が訪れる出雲大社を始め、日本遺産の日御碕や稲佐の浜など山陰地方を代表する観光地があり、資源の有効活用が求められる。 ・県外観光客の約4割は自家用車以外で来訪しており、二次交通の確保が求められる。 ・シェアサイクルの社会実験では出雲市駅～出雲大社間の利用が多く、観光利用のニーズが高い。 ・市内の主要な観光周遊区間となっている「出雲大社～道の駅キララ多伎」間には利便性の高い公共交通機関はない。 ・本市で開催されるサイクリングイベントが年間2、3回あるものの、サイクリストからは更なる開催が求められるとともに、サイクリングコースの案内やサイクルポート等の環境整備のニーズが高い。 ・観光客やサイクリストは、SNSやyoutube等のデジタルコンテンツを活用することで訴求力が高くなる。
安心・安全	・自転車交通量が多い路線を中心として自転車関連の交通事故が多く、特に自転車事故の約4割が20歳未満であるとともに、約3割が重傷・死亡事故である。 ・自転車交通ルールの認知度は高いものの、ヘルメット着用の順守率が低い。 ・自転車保険の加入率や自転車の点検整備率は低い状況であり、更なる加入・点検整備が求められる。

